2011年　9月13日・岩手日報「くらし」欄では

震災題材　胸打つ詩集
大槌出身・東梅さん（北上）作製
古里や同級生を追憶
23日の音楽詩公演出演

大槌町出身の東梅（とうばい）洋子さん（60）＝北上市＝は、東日本大震災をテーマにした詩集「うねり」をまとめた。「三月十一日の午後」など19編を収録。古里や、震災1カ月前に再会した同級生への追憶が心を打つ。23日には北上市のさくらホールで開かれる音楽詩コンサートに出演。大槌弁による詩の朗読を行い、古里への思いを表現する。

東梅さんは高校まで大槌町で過ごした。2月11、12日に大槌中の同窓会があり、例年以上の140人ほどが集まり盛会だったという。
再会を喜んだ1カ月後の震災。亡くなった同級生もいる。現地の風景や過去の記憶に加え、「帰らない友達はこんな気持ちでいるのかな」と思いを巡らせながら詩作した。
高校時代から詩作を始め、4年前から北上市の詩愛好者でつくる「はなももの会」に所属する。
「私は大槌出身だが、直接の被災者ではない。震災では『はざま』にいる人間だが、伝えられることは伝えたい」と思いを込める。
23日には、午後6時からさくらホールで開催される東日本大震チャリティーコンサート「音楽詩コンサートin北上パート2　吉岡しげ美　いのち、咲き…」に登場する。
当日は震災前の大槌を題材にした詩を大槌弁で朗読。「方言を話す人が少なくなり、震災でさらに散り散りけなった。言葉を絶やしたくない」と意欲を語る。
詩集「うねり」は約200部印刷した。1部500円。

「うねり」収録作のうち「うねり　4」など2編は、震災をはじめとした命の危機に対する切実な詩を全国から集めた「命が危ない　311人詩集－いま共にふみだすために」（コールサック社刊）にも収録されている。
同詩集には県内在住者では森三紗さん（盛岡市）、斎藤彰吾さん（北上市）らの作品も収録。1冊2100円。

東梅さんの詩

三月十一日の午後

同級生の彼女
何十年ぶりかの再会

一カ月後
生まれ育った
海辺の町に現れた
巨大な影と
たわむれて

帰る道を
忘れたと

どこで道草してる
桜のつぼみが
咲く頃　もどるのね
帰るのよ

うねり　4

血を流し
涙を流し
さけぶ町並み
何一つ
クギの一本も
さわる事もなく
町はなくなった

母さん
父さん
家が水にしずんで行(く)
家が見えなくなる
からだの
ふるえがとまらない

にげろー
水　くっつぉー
早ぐ　早ぐー

と紹介されています。